赤字:今回の変更点		-	-		-		-	2020年9月2日現在
レベル	授業	研究室等における学生との教育研究 活動 (系,研究所,センター)	教員個人の研究活動 研究所,センターの活動 (左記除く)	事務職員の業務	課外活動	学内会議	出張等	施設利用・構内入構
0 (終息)	●通常どおり			●通常どおり	●通常どおり	●通常どおり	●通常どおり	●通常どおり
0.5 (収束)		●ほぼ通常どおり <感染が再度広まらないよう新 しい生活様式等の実践>	<感染が再度広まらないよう留				<感染が再度広まらないよう新	●ほぼ通常どおり <感染が再度広まらないよう新 しい生活様式等の実践>
(警戒)	・新しい生活様式等の実践を徹底し、遠隔授業と対面授業を併用して、授業の実施 ・対面授業、実験実習 →身体的距離の確保1m目安	・在宅勤務の活用推奨・時差出勤の活用推奨	・新しい生活様式等の実践を徹底し、必要な活動の実施・在宅勤務の活用推奨・時差出勤の活用推奨*県外、県内の名古屋市等感染	・新しい生活様式等の実践を徹	●感染拡大防止措置の上 ・新しい生活様式等の実践を徹 底し、必要な活動の実施	・新しい生活様式等の実践を徹	・新しい生活様式等の実践を徹 底し、流行地域への不要不急の	
・課外活動は 7/23〜当面, レベル3を適用	<新しい生活様式等の実践の徹底> (別紙A参照)	者は、できる限り人と人との接触機会を少なくするよう慎重に対応 〈新しい生活様式等の実践の徹底〉 (別紙B、D参照)	者は、できる限り人と人との接触機会を少なくするよう慎重に対応 <新しい生活様式等の実践の徹底> (別紙B, D参照)	<新しい生活様式等の実践の徹底> (別紙B,研究室・執務室・事務室での活動,D参照) ★8/06〜当面の間,レベル2に移行	<新しい生活様式等の実践の徹底> <u>★7/23~当面の間、レベル3に移行</u>	底> ★8/06~当面の間、レベル2に	<新しい生活様式等の実践の徹 底>	徹底し、施設開館
1.5 (警戒) 7/09~8/05 09/02~ 出張等,施設利 用・構内入構							・新しい生活様式等の実践を徹の実践不流行地域ののは、流行地域のは急のでは、 ・旅行の不自動のは、 ・旅行の不自動のは、 ・旅行の不慎重 ・流行の不慎重 ・流行地域に出い、 ・流行地域に出い、 ・流行場省を含む、 ・流行場でを含む、 ・流行場でである。 ・流行のである。 ・に、のに、 ・に、のに、 ・に、のに、 ・に、のに、 ・に、のに、 ・に、のに、 ・に、のに、 ・に、のに、 ・に、のに、 ・に、のに、 ・に、のに、 ・に、のに、 ・に、のに、 ・に、のに、 ・に、 ・に、 ・に、 ・に、 ・に、 ・に、 ・に、 ・	・新しい生活様式等の実践を徹底し,施設利用・構内入構 <学外者(流行地域)> ・原則,施設(図書館,研究所, センター等)利用,構内入構禁
2 (中度警戒)	・新しい生活様式等の実践・励	・在宅勤務を積極的に活用し,	・在宅勤務を積極的に活用し,	・一居室での人数を減らすなど	・活動前の健康チェック(倦怠	・新しい生活様式等の実践・励	底> ★9/02~当面の間, レベル1.5 ●感染拡大防止措置の上 ・新しい生活様式等の実践・励	<新しい生活様式等の実践の徹底> (別紙B, D参照) ★9/02~当面の間, レベル1.5 ●一部制限 <学生・教職員> ・新しい生活様式等の実践・励行を
施設利用・構内入	動(旅行(帰省を含む))した	動の継続 ●ただし、大学内での活動継続が必要な場合は、新しい生活様式等の実践・励行を条件に、実施することができる。 ・研究室所属学部学生について	オンライン活用による必要な活動の継続 ●ただし、大学内での活動継続が必要な場合は、新しい生活様式等の実践・励行を条件に、実施することができる	を徹底し、必要な業務の継続 ・時差出勤の活用 ・在宅勤務の活用 ・別室活用	感・息苦しさ・発熱がないことの確認)及び新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、課外活動の実施 ★許可制 <活動前の健康チェックの徹底> <新しい生活様式等の実践・励行の徹底> (別紙C許可基準参照)	・対面会議を実施する場合は、	省を含む))した場合、本学に通う居住地(豊橋市内等)の戻った後、1週間は在宅勤務を(テレワーク)、在宅学習等を求め、できる限り人と人との接触機会を少なくするよう慎重に	徹底し、施設利用・構内入構 *公 共交通機関利用も可 <学外者> ・原則、施設(図書館、研究所、セ ンター等)利用・構内入構禁止 ・ただし、大学の機能の維持、教育 研究活動の継続等に必要な打合せ、 物品の納入、工事施工、取材等は構 内入構を認めることができる。 <図書館、研究所、センター> ・新しい生活様式等の実践・励行を 徹底し、施設利用再開
9/01~0/26	<新しい生活様式等の実践・励 行の徹底> (別紙A参照)	<新しい生活様式等の実践・励 行の徹底> (別紙B, D参照)	★届出制 <新しい生活様式等の実践・励 行の徹底> (別紙B, D参照) ★6/24~レベル1継続中		★7/23〜当面の間、レベル3適 <u>用</u>		<新しい生活様式等の実践・励 行の徹底> ★9/02〜当面の間,レベル1.5 に移行	<新しい生活様式等の実践・励行の 徹底> (別紙B, D参照) ★9/02~当面の間, レベル1.5 に移行

	・学生の皆さんは、原則、自宅で遠隔授業を受講 ★授業開始日を5/11まで延期 ★5/11から遠隔授業(オンデマンド)を開始(5/29まではオンデマンドのみ)	オンライン活用による必要な活用による必要な活用による必要な活力での。 ・だいないででのも、大学のででのは、大学のででででででででででででででででででででででででででいる。 ・が必要のようでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	・在宅勤務を積極的に活用し、オンライン活用による必要な活動の継続 ●ただし、大学内での活動継続が必要な場合は、新しい生活集ができる。 ★届出制 <新しい生活様式等の実践・励行の徹底>	・一居室での人数を減らすな ど、新しい生活様式等の実践・ 励行を徹底し、必要な業務の継 続 ・時差出勤の活用 ・在宅勤務の活用 ・別室活用		(別紙3参照) ★届出制 <新しい生活様式等の実践・励	・海外及び特定警戒都道府県 (跨学・海外及び特定警戒都道府・ を管戒を動きがある。 の禁止・上記以外の不要不急の出張・ 大田の禁止・上記の禁止・ 大田の禁止・ 大田の本語の出版を表す。 ・本本のは、 本本のは、 本本のは、 本本のは、 本本のは、 を主記しまする。 ・は、 本本のは、 本本のは、 を求めます。 ・が行の徹に、 その行のである。 ・がである。 ・がでなる。 ・がでなる。 ・がでなる。 ・がでなる。 ・がでなる。 ・がでなる。 ・がでなる。 ・がでなる。 ・がでなる。 ・がでなる。 ・がでなる。 ・がでなる。 ・がでなる。 ・	● 本
	デマンドのみ)	●ただし、大学の機能を最低限維持するための活動は、新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、大学内での継続を認める場合がある。(別紙1参照)(出校者(教員・学生)70%削減目途) ★許可制	・在宅勤務でオンライン活用による活動の継続 ●ただし、大学の機能を最低限維持するための活動は、新しい生活様式等の実践・励行を徹し、大学内での継続を認める場合がある。(別紙1参照)(出勤者70%削減目途)	・一居室での人数を減らすとと での人数を減らすととの 継続(出勤者70%削減目途) ・時差出勤の積極的活用 ・西務シフトの活用 ・別室 ・別を ・別を ・別を ・別を ・別を ・だし、大学の機能を最低限い を終うするとの を終うし、 ・だけずるの をはずるの をはず、 をはず、 をはず、 をはず、 をはず、 のもに、 のもに、 をはず、 のもに、 のも、 のもに、 のもに、 のもに、 のもに、 のもに、 のもに、 のもに、 のもに、 のもに、 のもに、 のもに、 のもに、 のもに、 のもに、 のもに、 のもに、 のもに、 のも	★7/23~当面の間, レベル3	は、数名程度で新しい生活様式 等の実践・励行を徹底し、対面 会議も可能とする。 (別紙3参照) ★許可制 <新しい生活様式等の実践・励	●ただし、やむを得ない事情がある場合、緊急性を要する場合に、出張、旅行を認める場合がある。(別紙3参照)	◆ 学内内 の の の の の の の の の の の の の の の の の の
4	よる遠隔授業の実施は可とする。 ・学生の皆さんは、自宅でオンデマンド方式による遠隔授業の受講は可	・オンライン活用による活動の継続 ●ただし、大学の機能を最低限維持するための活動は、新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、大学内での継続を認める場合がある。(別紙1参照)(出校者(教員・学生)80%削減) ★許可制	・在宅勤務による活動の継続 ●ただし、大学の機能を最低限維持するための活動は、新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、大学内での継続を認める場合がある。(別紙1参照)(出勤者80%削減) ★許可制 <新しい生活様式等の実践・励	の維持するための業務は、新しい生活様式等の実践・励行を徹底し、上記以上の出勤者による業務の継続を認める場合がある。(別紙2参照) ★許可制		様式等の実践・励行を徹底し、 対面会議も可能とする。 (別紙3参照) <新しい生活様式等の実践・励	●ただし、やむを得ない事情がある場合、緊急性を要する場合に、出張・旅行を認める場合がある。(別紙3参照)	可) ●ただし、大学の機能を最低限維持するため、施設利用・構内入構を認める場合がある。 (別紙1,2,3,4参照) その場合、公共交通機関での構内への入構は原則禁止 ★許可制 <新しい生活様式等の実践・励

- ★届出制,許可制の流れ→研究室等(研究指導教員等)→系・研究所長,センター長→研究担当理事・教学担当理事,事務関係は課長→次長→局長,課外活動関係は顧問→担当副学長,出張等は当該者→所属長等(命令権者)
- ●教職員は、レベル4となった場合であっても、基本的には引き続き勤務(在宅勤務等)し、学生の学修機会を確保するための教育活動、必要な研究活動、事務事業は継続
- ●教員系の非常勤職員は、教員個人の研究活動、研究所、センターの活動、事務局系の非常勤職員は、事務職員の業務に準じてください。

(別紙A,新型コロナウイルス感染症予防及び拡大防止のための2020年度授業等の実施にかかわる | (別紙B)

新型コロナウイルス感染症対策としての遠隔授業は、教務委員会および教育戦略本部会議が別に 定める「2020年度の授業の実施方法について(新型コロナウイルス感染症の状況の変化等を踏まえ 随時見直し) 」に基づき実施すること。

2. 【基本的な感染症対策,感染防止の考え方及び授業等実施の要件】

学生が通学する形で行われる対面での授業等(以下「授業」という。) を実施する場合において は、3つの条件(①換気の悪い密閉空間、②多くの人が密集、③近距離での会話や発話)が重なる ことを徹底的に回避する対策が不可欠である。授業の実施については,原則として以下の要件を満 にすよう,引き続き万全の感染症対策を講じ,衛生環境の整備に特に留意するとともに,新型コロ ナウイルス感染症対策専門家会議において提言された「新しい生活様式」も踏まえ,必要な措置を

(1) 換気の悪い密閉空間にしないための換気の徹底

- 対策:・換気は、気候上可能な限り常時行う。困難な場合はこまめに(授業中30分に1回以上、 数分間程度,窓及び反対側扉の2方向の窓を開ける。)換気する。
 - ・窓のない教室は、常時入り口を開けておいたり、換気扇を用いるなどして十分に換気に 努める。(使用時は、人の密度が高くならないように配慮する。)
 - ・エアコン使用時(エアコンは室内の空気を循環しているのみ)においても換気する。 対策実施者:授業担当教員

(2) 多くの人が手の届く距離に集まらないための配慮

- 対策:教室の収容定員に対して受講者の割合が概ね50%程度であること。
 - 一定の間隔を空けて座席を確保できること(概ね1つおき(最低1気)の間隔に着席させる) 対策実施者:授業担当教員
- (3) 近距離での会話や大声での発生をできるだけ控え、会話をする際は、できるだけ真正面を避
- 対策:飛沫を飛ばさないようマスク(手作りマスクやタオル等を巻くなどでも可)を着用する。 マスクを着用していない場合は、ディスカッション形式の授業は行わないこと。 対策実施者:授業担当教員

(4) 手洗いや咳エチケットなどの基本的な感染症対策の徹底

対策:講義室等入室前の手洗いや手指消毒を徹底する。各教室等へのポスターによる感染症対策

対策実施者:事務局

- (5) その他授業における留意事項,接触感染しないための工夫
- 対策:授業で使うもの(マイク,筆記具,情報機器等)は共有させないこと。 対策実施者:授業担当教員
- 対策:授業終了後は教室等に留まらせず、自宅での事前・事後学修を行うよう指導すること。 対策実施者:授業担当教員

(6) 風邪等の症状がある場合の取扱い

- 対策:・咳, のどの痛み, くしゃみ, 鼻水, 鼻づまり, 頭痛, 発熱, 喉のかれ, 腹痛, 下痢, 筋 肉痛、倦怠感、味覚・嗅覚異状など、普段通りではない体調の変化(体調の異変)・違 和感を感じた場合には、出校させないこと。 (*「新型コロナウイルス感染拡大防止の ための学生連絡体制図https://www.tut.ac.jp/docs/20200513taikeizu.pdf」により対
 - ・風邪等の症状により授業を欠席した場合は後日、補講・追試の実施、授業中に課すも のに相当するレポート課題等を実施し、欠席扱いとしないなど不利益にならないよう配
 - ・必要に応じて授業資料等(説明文章付きPPT・PDFファイル等)を作成し、学習管理シス テム(Google classroom等)に掲載すること

対策実施者:授業担当教員, (*教務課, 学生課, 国際課)

(7) 新型コロナウイルスに罹患した(おそれのある)場合

- 対策:・発熱や咳等,体調の悪い場合には大学へ出校させずに自宅で療養させること。出校後 に症状が出た場合には、必ず教務課教務係に電話連絡し、速やかに下校させ自宅で療養 させること。その後の経過についても同様に毎日電話連絡させること。いずれの場合も 上記(6)の履修上の配慮を行うこ
 - ・新型コロナウイルスに罹患した学生、海外から帰国・入国後2週間の自宅待機措置中の 学生及び入国できない学生は、入院又は出校禁止(自宅療養)としていることから、当 該学生には上記(6)の履修上の配慮を行う

対策実施者:授業担当教員,事務局(教務課,学生課,国際課)

●研究室・執務室・事務室での活動

- 一般的な感染予防策(接触・飛沫感染防止策)の徹底
- 在宅勤務(テレワーク)の推進
- *スタッフの午前と午後で交替や、曜日毎にローテーションで活動等の実施(出勤者・出勤時間の合計の削減)
- ・セミ等は当分の間、オンラインで実施
- ・座席配置は仕切りのない対面での座席配置は避け,可能な限り対角, 横並びにするなど工夫する。
- ·身体的距離の確保(できるだけ2m(最低1mは空ける。)
- 上記の座席配置、身体的距離の確保が1室で確保ができない場合は別室を設けることも一つの対策。
- 外出時,屋内,会話時はマスクの着用 入室時の手洗いの実施 (手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗うこと。(手指消毒薬の使用も可))
- 共用の物品を触れた後に、顔(目、鼻、口)に触れないよう気をつけ、触れた後は手洗いや手指消毒を行う。
- こまめな換気の実践(実験等の性質も考慮しつつ、換気設備を適切に運転、2つの窓を同時に開けるなど)
- 咳エチケットの実践
- 3 密の回避(密集,密接,密会)の徹底
- 毎朝、体温測定、健康のチェック
- 施設 (ドアノブ・エレベータボタン等) の消毒
- 症状(発熱や風邪症状等)のある者の入場制限(検温の積極的実施,体調不良時の出勤回避,個人情報の取
- 扱に十分注意しながら入場者等の名簿を適正に管理)等
- 押印や署名に代えてオンラインでの手続きの活用
- 外部業者等との接触を減らすため、納品や検収は物品検収室で主に対応
- (物品検収室は透明ビニールシート等で遮蔽し対応) 窓口等では透明ビニールシート等で遮蔽し対応
- ・ネットワーク環境の最大限活用(ネットワーク環境を保有していない人の開放等) ・スタッフが他者との接触を極力避けられるエリアの設置など,可能な限り研究活動に専念できる環境の整備 ・オンラインの活用に当たっては、情報セキュリティ対策に留意。
 ・職場への出勤は、在宅勤務、時差出勤、自動車・自転車、徒歩等による接触機会の低減

(県外からの職場への出勤含む(外出自粛の協力要請の対象外))

●実験施設・設備の利用について

- ・実験施設・設備の利用は最低限に留め、データ解析等は在宅で行う。
- 「三つの密」を避けるための運転計画、施設利用スケジュールの構築(施設内の密を避けつつ、短時間の実
- 研究設備や備品について、端末操作画面やスイッチ、ドアノブやトイレなど複数の人の手が触れる場所を必 要に応じて消毒。また、実験等の性質も考慮しつつ、ドアを常時開放するなど、人の手が触れる場所を少な
- 安全管理等の理由により、複数の人が同時に操作を行う必要がある研究施設や設備等においては、マスクの 着用、フェイスシールドの着用、またはアクリル板・透明ビニールカーテン等による遮蔽等の措置。
- 単独で長時間の実験・施設利用を行う場合は、利用開始・終了の声掛けや記録、事故時の連絡手段の再確認 など、万が一の事故に備えた安全対策の構築。
- 実験動物、遺伝子組換え生物(微生物、植物、動物)、病原性微生物や放射性物質を使用する研究の場合、 機関管理のもと、関係法令等を踏まえ適切に実施。
- 設備の遠隔利用や研究代行等の取組を積極的に実施するとともに、機関内外の遠隔利用サービス等を積極的
- 講義のオンライン化等に伴い空いている教室や実験・実習室等がある場合には、それらを積極的に活用

- (許可判断基準>
- ①基本的感染対策が活動団体内で周知・徹底されているか
- ②活動内容・活動人数・活動場所の設定にあたり、基本的感染対策が十分に勘案され、具体的に示されてい
- ③担当顧問との相談の上、申請がなされているか

(基本的感染対策>

- 1. 次のいずれかに該当する場合は本学健康支援センターに報告するとともに、帰国者・接触者相談センター に相談、課外活動には参加しないことを課外活動団体構成員全員が共有し、実践すること。 ・息苦しさ(呼吸困難)・強いだるさ(倦怠感)・高熱等の症状がある
- ・上記以外で発熱や咳など比較的軽い症状が続く (特に4日以上続く場合は必ず) 1人ひとりの基本的感染対策を実践する。
- ・身体的距離の確保(できるだけ2m(最低1m))
- 屋外活動の優先
- ・可能な限り真正面を避けた会話(大きな発声を伴う活動は基本的に不可)
- ・課外活動時のマスク着用 (活動内容による)
- ・帰宅時の手洗いの実施 (手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗うこと(手指消毒薬の使用も可))
- ・感染流行地域からの移動、感染流行地域への移動の自粛(感染地域状況の確認)
- ・ 行動履歴の記録 (発症したときのため、誰にどこであったかをメモ)
- 3. 日常生活を営む上での基本的生活様式を実践すること
- ・こまめに手洗い・手指消毒
- ・咳エチケットの実践・こまめな換気の実践
- ・「3密(密集,密接,密会)」徹底回避
- 毎朝の体温測定,健康チェック

(教職員,学生>

- D次のいずれかに該当する場合は帰国者・接触者相談センターに相談,本学健康支援センターに報告し,出 勤, 出校しない。
- ・息苦しさ(呼吸困難)・強いだるさ(倦怠感)高熱等の症状がある場合
- ・重症化しやすい方(基礎疾患がある方や透析を受けている方,免疫抑制剤や抗がん剤等を用いてる方) で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状のある場合
- ・上記以外で発熱や咳など比較的軽い症状が続く場合 (特に4日以上続く場合は必ず)
- ②上記以外の発熱又は風邪の症状がある場合,同居する者に上記も含め同様の症状が見られる場合は,無理を せず自宅で療養
- 1人ひとりの基本的感染対策の実践。
- ・身体的距離の確保(できるだけ2m(最低1m)空ける。) ・会話をする際は、可能な限り正面を避ける。
- ・外出時、屋内、会話時はマスクの着用
- ・手洗いは30秒程度かけて水と石けんによる手洗いの徹底(手指消毒薬の使用も可)
- ・感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域からの入構は控える。
- ・地域の感染状況に注意。
- ・発症したときのため、誰にどこであったかをメモ。
- D日常生活を営む上での基本的生活様式の実践。
- ・こまめな換気の実践 ・3密の回避(密集,密接,密会)の徹底
- ・毎朝、体温測定、健康のチェック。

(学外者>

- ・レベル2の場合 教育・研究活動等の打合せ、就職相談等は原則、オンラインによる。 ・レベル1の場合 教育・研究活動等の打合せ、就職相談等は、積極的にオンラインを活用
- ・なお、大学の機能の維持、教育研究活動の継続等に必要な打合せ、物品の納入、工事施工、取材等は構内 入構を認める場合は, 次のことを行う。
- ・入構前に必ず学外者が新しい生活様式等を実践し、健康状況に問題がないことを確認する。
- ・入構の際にはマスクの着用を徹底する。
- ・それぞれの氏名、連絡先、滞在日時、学内対応者等を教員及び部局において記録する。
- ・一定時間以上学内で活動を行う以下に該当する者については、感染防止措置を強化
- し、体温測定、健康状態の問診を行い、症状が無いことを確認する。 *学内者と15分以上の会話がある場合、同一建物内に30分以上滞在する場合
- ・学外者が頻繁に訪れる窓口には、透明ビニールカーテン等による感染防止設備を設置する。

(別紙1)	(別紙2)	(別紙3)
大学の機能を最低限の維持するための研究活動,施設利用・入構等の例	●大学の機能を最低限の維持するための事務業務,施設利用・入構等の例	●やむを得ない事情がある場合,緊急性を要する場合に,対面会議,出張,旅行を認める場合の例
研究に使用する生物の維持・管理 液体窒素・液体ヘリウムの補給のための装置等の維持・管理 毒劇物等の研究に使用する薬品の維持・管理 研究に必要な基幹インフラ(実験施設・設備、情報システム)の稼働・維持・ 理 研究活動を継続する上での各種安全確保 その他法令等で義務の順守等に必要な場合	・職員の給与等、生活に関わる最低限の給与支給等に関わる業務 ・教育・研究活動等の継続に必要な最低限の調達、安全管理業務 ・学生の教学支援、学生生活に関わる最低限の業務(当該業務が集中する期間) ・大学の重要な管理運営業務(危機管理を含め、他機関等との連絡・調整含む) ・その他、法令等で義務の順守等に必要な業務	<会議> ・国等,公的機関からの通知等により,至急に意思決定が必要な場合 ・その他,大学として至急,意思決定をしなければならない重要案件が発生した場合 <出張,旅行> ・国等,公的機関から依頼がある場合 ・家族に不幸等やむを得ない事情がある場合 ・その他,法令等で義務の順守等に必要な場合

- (別紙4) ●大学の機能を最低限維持するために施設利用・構内入構を認める場合

- ・別紙 1
 ・別紙 2
 ・別紙 3 の会議
 ・食堂,売店等,飲食を学生・教職員に提供する場合
 ・事故への対応が必要となった場合
 等